

平成 13 年度第 1 回 原子力土木委員会耐震性能評価部会ならびに RCWG・地震荷重 WG 議事録

日 時：平成 13 年 6 月 6 日(金) 10:30～13:00

場 所：弘済会館

出席者：主査 岡村

部会委員（順不同） 前川，六郷，佐藤，中村，角田，岩楯，濱田，坂本，遠藤（正），
鈴木，原田，金谷，平岡，富樫，伴，金津，当麻，大友，遠藤
（達）

RCWG 委員（順不同） 睦好，中西，浅井，高尾，福本（幸），岡市，中房，橋本，松村，
松井，松尾，宮川

地震荷重 WG（順不同） 岩下，澤田，中村，梶田，石川，河井，末広

オブザーバー 福本（彦），松本，嶋田，松原，曾良岡，本田

議事概要：

1．原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針（案）について

原子力発電所屋外重要土木構造物の耐震性能照査指針（案）の主な特徴と審議事項についての説明があり，以下のような質疑応答，コメントが出された．

- ・機器・配管を支持しない構造物に対する要求性能については，「崩壊しなければ通水機能は維持される」ということを解説に明記すべきである．
- ・耐久性能照査においては，選択肢の一つとして鉄筋の錆びの発生を許容するものと考えているが，この場合，錆びを防止した場合と許容した場合とで，耐震性能照査における限界値を分けるのも合理的な方法である．
- ・材料のばらつきを見込んで材料物性を定めるのか，平均値を採用するのかという点が明確でないとの意見があった．材料物性のばらつき（特に地盤）がもたらす動的解析結果の変動を把握することとした．
- ・常時の検討とは，地震作用のように瞬間的なものでなく継続的に作用する状況を対象とするものであるから，耐久性能照査が常時の性能照査を包含しているというのは誤った考え方である．このため，たとえば，付録などの形で常時の安全性照査の内容を含めた指針とするのが良い．

2．その他

- ・実規模海水管ダクトの載荷実験とその数値シミュレーション結果が紹介された．
- ・次回部会開催予定日を 8 月 29 日とすることとした．

以 上